

## 平成18年度第2回岡山市総合政策審議会 都市・交通部会の主な意見

- 1 日時 平成18年10月5日(木) 9:34~11:31
- 2 場所 岡山市役所本庁舎7階 大会議室
- 3 参加者 委員15名中10名出席  
岡山市：小林都市整備局長、今岡都市整備局副局長、佐藤統括審議監  
周藤審議監(都市開発担当)、東審議監(公園緑化担当)  
平林審議監(土木担当)、山内審議監(都市建築担当)ほか  
事務局：守分次長ほか
- 4 傍聴者 1名
- 5 会議概要
  - (1) 都市整備局長あいさつ
  - (2) 審議
  - (3) その他連絡

## 6 主な意見

### 1 岡山市住宅基本計画の策定について

#### (概要説明)

岡山市住宅基本計画は、平成13年度に作成した「岡山市住宅マスタープラン」について、社会情勢の変化に伴い見直しを計ろうとしているものです。

この計画は9章立ての構成を考えており、1章~4章は基本理念、5章は市民・事業者・行政の役割分担、6章は行政の役割、7章は公的住宅のあり方、8章は今後の住宅行政のメニュー出し、9章はそのメニューの具体的な内容を示します。第2回目の本日は、基本理念の部分を説明します。

(質問) 岡山市が将来どうするか、どういう住宅をつくるとか、環境をどうするかという場合、一番考えなければいけないのは、政令指定都市になるという前提でどうするのか、人口はどうなるのかというようなことを、やはり踏まえて考えないといけないのではないかと。

(回答) 我々としても、やはりめり張りのついた岡山市、政令市に向けて、あるいは中四国の中核となる都市としてどういう住宅政策を持つのか、基本は何なのかということは、もちろんつくっていききたい。しかし、一応総論的にこういうふうな視点というのは出させていただいて、その中で岡山の特徴、特色、めり張りのついたものを御議論いただきたい。

(質問) キーワードはゾーニングではないか。人数合わせで70万人にとりあえずすることによって政令市を目指すのであるならば、なんとなく本末転倒のようなことをこれから進めていくのかなという感じがする。岡山の特徴というものをもう一度分析してみる

必要がある。岡山らしさといったら、やはり歴史や文化である。住民の共通点という意味での歴史や文化を、もう一度見直す必要があるのではないか。

(回答) 伝統・文化という視点で、今まちづくり交付金というのをに入れて、そういう時代を残していこうと、それから新しいスポットとして、それが観光なり地元の皆さんが支えてくれるようなまちにしようと、そういうゾーニングがある。新たな活性化の施策として、市街化調整区域での活性化ができる地域についてはやる。これも一つのゾーニングといえばゾーニングなのかもしれない。ゾーニングの話は確かにいろいろな形で現在もやっているが、それが十分に働いていないということもあるだろうし、もっとつくっていかねばいけないというところもあるだろうと思う。

(質問) 公共交通機関をどうやっていくのか、それから中心市街地へどのような動きで移動していくのか。導線を描いたような形のもの、ある程度具体化したもの、こういった文言についてもやはりある程度記入してほしい。

(回答) 住宅のところの部分で、どう基本計画として枠組みをつくっていくのかというふうなあたりが我々も今のところなかなか整理しきれていないので、広範な議論をしていただいて、その中から取りまとめをしていただければどうかと思う。交通政策というのは住宅、住んでいく上で重要なところと思っているので、何らかの入れ込みは必要であると感じている。

(その他の意見)

- 何が市民として誇りなのか、何を負担しなければならないかということをもっと明記しなければ、どんどんこれから市域が広がって行って、それぞれのまちにあるそれぞれの問題点を、市役所でもって考えていくということには、もう限界があるのではないか。
- 移動手段である交通ということも、やはり重要な要素として考えておかなければいけない。例えば、移動手段として、公共交通機関、バス、鉄道、自家用車あるいはその他の交通手段というのはどんな使われ方をしている、これから高齢化社会に向かっていってどういう移動手段が求められているのかということも含めて分析がある。高齢者の方の交通事故ということもやはり意識したまちづくりをしておかなければ、本当の安全・安心のまちはできない。耐震も大切なことだけれども、移動手段としての道路、あるいは交通機関がどういうふうな現状にあり、どういう方向に持って行ってまちづくりをしていくのかということも重要なポイントではないかと思う。したがって、あるモデルケース、モデル地区みたいなゾーニングをした中で、本当にそこに住みやすい、自分たちの意思の中で豊かな生活ができるような移動手段を、そこに結節するというようなことを考えたモデルゾーニングみたいなものまでイメージしながら、この提言はつくっていかばどうかなという気がする。
- 住のセーフティネットと安全性、この2点を確保してしまえばもう少し優先順位というか、めり張りをつけた形で進めていっても構わないのではないか。やはりエリア的な視点がまだこの段階では出てきていない。今、コンパクトシティ化を目指そうという方向性がある中と、それから郊外でも、めり張りのある整備が必要ではないかという考えが出てきている。また、地球環境保全という観点からしても、もう少し集まって住むとこ

ろとそうではないところのめり張りをつけていってもいいのではないか。それから住環境ということ言えば、市街地緑化をもう少し促進した方がいいのではないかと考えている。市街地緑化の方は意外と緑化が進んでいない。西川緑道公園などは市街地緑化を進めた1つのいい例かと思えますけれども、中でも後樂園とか旭川とか西川とか非常にいい資源があるんですけれども、そういったものをリンクしていくような市街地の緑化、街路樹とか緑道とかロータリーとか駅前広場等の緑とか、そういったものをもう少し効果的に増やしていくことで、市街地の緑化を進め、そのことがひいては住環境の向上ということにつながってくると思う。

- やはり、岡山は平野が非常に広いですし、都会とは違ったまちづくり、住まいづくりが考えられるような気がする。もっと広い敷地に住まいを考えるとということも少しエリアを決めて考えてもいいのではないか。
- 中心市街地ということを考えるならば、実際に暮らせるということをもっと視点に入れたまちづくりが必要になってくるのではないか。
- もっと自信を持って主体性を持って岡山のまちづくりをやってほしい。リーダーシップということが今求められているのではないか。
- これから新しく政令都市に向かって動こうとしている岡山のかなり近い、20年とか50年ぐらいのタイムスケールの中で、岡山市のあるべき住宅の話と、あるいは住宅を含んだエリアの根強いまちづくりをどうするかという話を基本的につくっておく。そのうちに都市ビジョンも出てくるだろうと思うので、その中で住宅基本計画がきちっとはまるかどうか、あるいはその都市ビジョンを推進するような形になっているかというチェックをして、お互いにつき合わせてみること。
- どの地域をどういうふうに誘導していくかというその中身にこそ、そのほかの市ではない岡山らしさが出てくると思う。
- 公と個というか、その我々の分担が変わってきているということに住民も十分これからは理解していかなければいけない。行政と住民が公と私というのを上手に組み合わせていくという、そういう姿勢があるだろう。その上で、やはり行政としてのリーダーシップは失ってはいけないというのが一本通ってないといけない。
- まちづくりというのは明らかに市民運動である。住民の要求を答えていく、もうこれは限りがある。それよりも住民が地域に対して何ができるかということをやはりもう一度考え直す時期が来ているのかなという感じがした。
- 人情といいますか、人の自然さが残ったまちづくりが行われているということは岡山の魅力だと思う。
- 問題解決系の提案は、恐らく利便性を高めていきますし、理想実現系の提案は魅力性を高めていくと思う。今回のを見ると、利便性を高める、生活クオリティを高める、生活環境クオリティを高めていくという面ではかなりよく出来ていると思うが、この魅力を高めていき付加価値をつける系のところがまだ少し弱いのかなという感じがした。魅力を高める方の提案がアイデアの光ったものが出てくると素敵ではないかなと感じている。

(部会長総括)

よく衣食住と言いますが、衣とか食については非常に高いレベルのものがある。しかし、なぜか住に関しては非常に場当たりのというか短期的で、クオリティーは余り追求しない。とにかく住に関しては非常に日本はいろいろな意味で個々の住宅も遅れているし、エリアとしての住環境などについても遅れている。住環境が流通していた都市というのはやはり成熟した都市になるのだろう。そのためには意識の成熟もいるだろうと思う。だからやはり住環境の問題というのは、家ですけど家ではない、超えたものがあると理解してこの計画をつくっていきたい。手探りでいかないといけない、非常に難しいことですが、これをやりきるかやらないかでこの岡山は随分変わってくるという気がしているので、今後はいろいろとアイデアを出していただいて、是非この計画をいいものにしていきたい。